

受入事業

■事業の目的

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的としています。

■日程

令和元年6月16日(日)～6月25日(火) 9泊10日

■招聘参加者(10歳～14歳)、随行者

マーシャル諸島共和国.....参加者24名 随行者 4名 計28名
 ミクロネシア連邦.....参加者48名 随行者 8名 計56名
 パラオ共和国.....参加者12名 随行者 2名 計14名
 合計.....参加者84名 随行者14名 計98名

■日本人参加者

ホストファミリーの子供たち(小学5年生～中学2年生).....28名

■地方プログラム

長野県(国立信州高遠青少年自然の家)、島根県(国立三瓶青少年交流の家)、広島県(国立江田島青少年交流の家)

日付	活動内容
6月16日	日本到着 オリエンテーション
6月17日	スポーツ交流 歓迎交流会
6月18日	上野動物園 松濤中学校訪問
6月19日	国会議事堂見学 各国大使館訪問
6月20日	各地方施設へ移動 (長野県・島根県・広島県)
6月21日	小学校訪問
6月22日	施設プログラム ホームステイ
6月23日	ホームステイ ホストファミリーとの さよならパーティー
6月24日	各地方施設出発 成田市市内ホテル泊
6月25日	日本出国

各国・地域対抗で様々なゲームを実施しました。特につなひきは全員が一体となって盛り上がりました。



松濤中学校では、招聘参加者と生徒が一緒になって、お互いの国の踊りを教え合い、踊りをとおした交流をしました。

パラオ共和国大使館では、日本とパラオとの関係や交流の歴史、大使館の仕事について説明をしていただきました。



広島プログラムでは、江田島市立江田島小学校を訪問し、江田島小学校の児童と一緒に机を並べて給食を食べました。

長野プログラムでは、ホームステイに行く前に、ホストファミリーの子供と一緒に藍染体験しました。



<於 国立三瓶青少年交流の家>

2019年度 ミクロネシア諸島 自然体験交流事業 実施報告

主催:独立行政法人国立青少年教育振興機構
 後援:外務省・文部科学省・マーシャル諸島共和国
 ミクロネシア連邦・パラオ共和国



National Institution For Youth Education
 独立行政法人 国立青少年教育振興機構

令和元年12月発行

派遣事業

■事業の目的

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的としています。

■日程

令和元年7月29日(月)～8月8日(木) 10泊11日

※1日目は参加者研修会(NYC泊)

■派遣先

マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦チューク州、ミクロネシア連邦ポンペイ州、パラオ共和国

■参加者(小学5年生～中学2年生)

64名(各島16名ずつ派遣)

■随行者

団長、リーダー、サブリーダー、添乗員、看護師、通訳

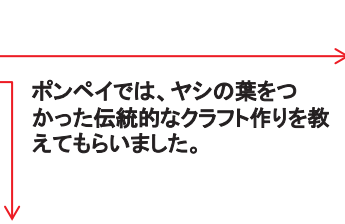
※前年度少年の主張全国大会発表者のうち、高校生6名がサブリーダーとして参加

日付	活動内容
7月29日	参加者研修会 NYC泊
7月30日	グアムへ移動 ※パラオのみ30日にパラオ着
7月31日	チューク、ポンペイ、 マーシャルへ移動 オリエンテーション
8月1日	○自然体験 ○野外生活体験 ○異文化交流体験
8月2日	
8月3日	
8月4日	ホームステイ
8月5日	ホームステイ ホストファミリーとの さよならパーティー
8月6日	グアムへ移動
8月7日	日本へ帰国
8月8日	合同学習発表会

マーシャルでのシュノーケリング体験では、マーシャルブルーと称される鮮やかな青色に輝く海を堪能しました。



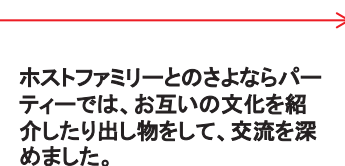
無人島では、ヤシの葉を使っておこした火を囲み、今日1日や今までの団としての生活を振り返りました。チュークの夜空に架かる天の川がとともきれいでした。



ポンペイでは、ヤシの葉をつかった伝統的なクラフト作りを教えてもらいました。



1泊2日のホームステイでは、パラオの子供達とすっかり仲良くなりました。ホストファミリーの温かさが心に沁みました。



ホストファミリーとのさよならパーティーでは、お互いの文化を紹介したり出し物をして、交流を深めました。



＜於 日航成田ホテル＞

11日間一緒に過ごした仲間とお別れです。またいつか会いましょう！

■派遣参加者の声

- 日本とマーシャルの環境が違うので驚くことが多かったけど、水や食料の大切さを感じることができました。この事業を通して学んだことをこれからの生活に活かしていきたいです。
- チュークに行って素晴らしい自然体験や外国の方との交流、初めて食べるもの、どれも楽しむことができました。その一方で海のごみがとても多いことに気が付きました。たくさんの人にそれを知ってほしいと思いました。
- 今まで海外に行ったことがなかったので、どのような文化や食べ物があるかわからなかったけど、参加したことで、「衣・食・住」全てが分かったので、これをきっかけに他の国に行ったり、他の人にポンペイのことを伝えていきたい。
- パラオの子はだれとでも、やさしくしてくれるのですぐに仲良くなりました。言葉は全然通じなくてもジェスチャーなどで表現してわかってもらえると、とてもうれしかったです。パラオは自然も豊かで行ってよかったです。

■当年度までの参加者総数



2002～2019	マーシャル	ミクロネシア				パラオ	合計	子供の参加者総数
		ポンペイ	チューク	ヤップ	コスラエ			
受入	子ども	212	195	198	197	184	197	1,183
	随行者	40	37	37	37	34	37	222
	小計	252	232	235	234	218	234	1,405
派遣	子ども	247	317	327	253	201	522	1,867
	随行者	115	105	123	73	65	171	652
	小計	364	423	451	326	266	697	2,527
合計	616	655	686	560	484	931	3,920	3,050

※サブリーダーは、随行者に含む

ミクロネシア事業の参加者は、その後、積極的に海外留学をしています。

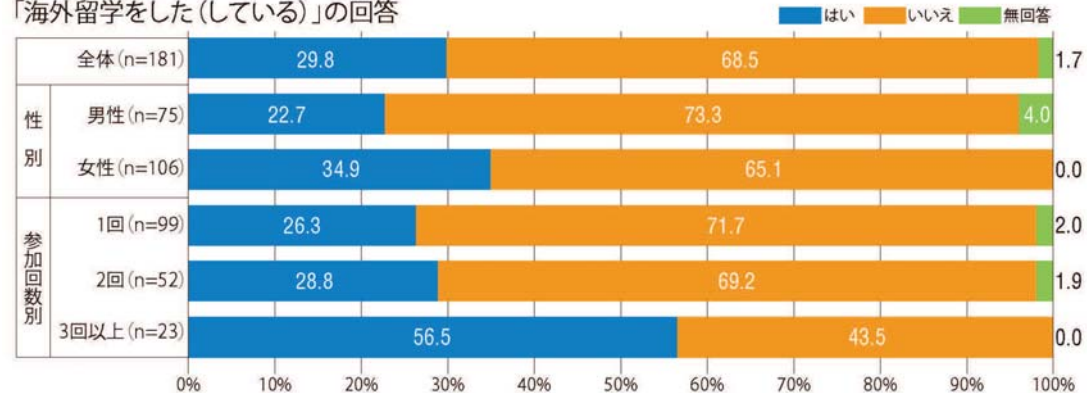
●本事業参加者の29.8%が本事業参加後、「海外留学をした(している)」と回答しており、日本人大学生全体の留学生の割合の2.15%^{※1}と比べて大きく上回っています。

※1 日本人大学生全体の留学生の割合は下記により算出

- ①日本から海外への留学生数(平成24年度):60,138名(「ユネスコ統計局、OECD、IIE等における統計」平成27年2月:文部科学省)
- ②高等教育機関在籍日本人学生数(平成24年度):2,796,057名(「平成24年度学校基本調査(確定値)」平成24年12月:文部科学省)

※日本人大学生全体の留学生の割合:①÷②×100=2.15%

「海外留学をした(している)」の回答



出典「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」日本人参加経験者に係る追跡調査報告書 (平成28年4月)